

道路の重要性訴え 道舗装事業協会ら3団体

北海道舗装事業協会（中田隆博会長）、日本道路建設業協会北海道支部（中山晶敬支部長）、北海道アスファルト合材協会（玉川裕一会長）の舗装関係3団体は7日、札幌市の札幌プリンスホテル国際館バミールで2026年新年交礼会を開いた。会員企業から約30

0人が参加し、新年の門出を祝った。



3団体を代表してあいさつした中田会長は「資材価格、運搬費の高騰など業界を取り巻く環境は厳しいものがあるが、会員企業と

もに諸課題に取り組んでいく。これからも社会インフラ、とりわけ道路事業の必要性、重要性を広く訴え掛けながら、舗装事業を通じて、北海道の暮らしの安全・安心とわが国の発展に寄与していく」と力を込めた。写真。

北海道開発局の遠藤達哉局長、三橋剛北海道副知事、天野周治札幌市副市長、玉木勝美北海道建設業協会副会長らが祝辞を寄せた後、北海道建設業信用保証の和泉晶裕社長の発声で乾杯し、和やかに歓談した。

